



いまオープンキャンパスが熱い！ 大学の魅力を伝える甲南大生の活動レポート



「ひろがる世界・見つける未来、つながる甲南」をキャッチフレーズに、甲南大学の2024年度オープンキャンパスが、春夏(2回)、秋の計4回開催されました。岡本・西宮・ポートアイランドの3キャンパスで全日程同時開催され、延べ人数約1万6千人の方々の来場がありました。

本学の特徴である「彩り教育」や「少人数教育」などを体感してもらうさまざまなプログラム、学生生活を思い描いてもらうための学生たちとの多様な交流の機会が設けられています。2024年から発足した学生団体「KONAN Ambassadors」のメンバーをはじめ、数多くの学生たちが協力し、学生企画のイベントや高校生との交流会などが多数行われました。最も来場者数が多い夏の開催では、一日あたり200人近い学生たちがかわります。みんな生き生きとして、来場者のみなさんに丁寧に接している姿が、キャンパスのあちこちで見られます。学生たちのことはやっと思いながらも本学の魅力を感じてもらえるようで、交流をきっかけに「甲南を志望する思いが強まった」という高校生の声も多くあります。学生たちの輝きこそが、本学の魅力を一番に体現してくれているようです。

次ページでは、オープンキャンパスを盛り上げる学生たちをクローズアップ！

オープンキャンパスを 私たちが盛り上げます!

甲南大学の魅力を高校生たちにたっぷり伝えるために、
オープンキャンパスでは甲南大生たちが大活躍!
岡本、西宮、ポートアイランドの各キャンパスで活動する学生の声を聞きました。



なんぼ一くんのキーホルダーは
ポーズが選べる

岡本 キャンパス

Okamoto Campus

来てくれた高校生に
甲南グッズをプレゼント



高校生向けに大学の広報活動を行う学生団体「KONAN Ambassadors」のメンバーとして、オープンキャンパスの企画を担当しています。2024年春に、この学生団体が発足すると聞き、大学生活にも慣れ、人とかかわる新しい活動を始めたいと思っていたのでチャレンジしました。2024年のオープンキャンパスでは、部活やサークル活動をしている人たちを集めてバラエティ番組風の公開座談会を開いたり、アンバサダー自身が大学生活の一日のスケジュールをパワーポイントで発表する、といった企画を考えて、実施しました。私は、高校生が楽しみながら、自然に「甲南に通いたい」という気持ちになってほしいと思って活動しています。なので、会場に笑いが起こったり、満足げな顔で帰っていく高校生たち

来てくれた高校生の笑顔で 企画に悩んだ苦労も吹き飛ばす

ちを見ると、企画に悩んだ苦労も報われます。活動を通して、一つ自分が大きく変わったことがあります。それは企画の会議などで、人前で何かを発表することや、意見を述べることに抵抗感がなくなったことです。また他の人の意見をよく聞くことで、ものごとに新しい視点が生まれることにも気づかされ、将来、社会で活躍するための基本になる力に身につながったと思います。2025年の春からは、アンバサダーズの企画班リーダーとして役割を引き継ぐことになりました。よりフレッシュで、楽しいオープンキャンパスにできるようにがんばっていきます。



KONAN Ambassadors所属

さん がわ
寒川 ゆらさん | 経営学部
経営学科 2年次

西宮 キャンパス

Nishinomiya Campus

CUBE(西宮キャンパス)内における自治組織CSUのオープンキャンパス局長を務めています。甲南に合格後、入学前スクーリングというイベントに参加したときに、右も左もわからなかった自分を導いてくれたのが、オープンキャンパス局の先輩たちでした。頼りがいのあるその姿に憧れて局に入りました。局員は約80人おり、イベント運営、ポスター製作、Instagramの投稿、大学生活を紹介するビデオやTikTok動画の投稿などの活動を行っています。私の役割は全体を取りまとめながら、事務室と連携し、オープンキャンパスが円滑に進むよう計画を立てることです。CUBEはマネジメント創造学部だけのキャンパスなので、少人数で学生同士や教職員と

高校生のころを思い、 気持ちに寄り添うオープンキャンパスに

の距離も近く、ここに来たいという受験生の熱量も高いと思います。それに応えられているかを常に自問自答しながら活動しています。特にやりがいを感じるのは、オープンキャンパスの個別相談に来ていた高校生が次の年の春に入学してきたときです。自分が受験生のころに持っていた進路への期待感や、抱えていた不安や悩みと同じものをきくと高校生たちも感じていると思います。そのことを意識して、高校生に寄り添える活動ができたかと考えています。局長としての活動を通じて、人をまとめあげることの難しさ、仲間を信じ、委ねることの大切さを学びました。それは将来に必ずプラスになると思います。

CSU統括局(CUBE Student Union) オープンキャンパス局長

おお た あつ や
太田 敦也さん | マネジメント創造学部
マネジメント創造学科2年次

研究内容を高校生にもわかるように 伝えることで、自分もスキルアップ

オープンキャンパスに訪れる高校生や保護者の方に、私の研究内容「生物の細胞と高分子を組み合わせた再生医療技術の開発」について説明しています。私はJST※「次世代研究者挑戦的研究プログラム」のスカラシップ研究学生に採用されており、その活動目標の一つに専門家以外に対して自分の専門分野をわかりやすく説明するスキルの習得があります。高校生を相手に、できるだけ専門用語を使わず、身近なものにたとえるなど工夫をして説明することは、このスキルの習得にも役立っています。期間中は大勢の高校生が訪れるので説明する頻度も高く、こちらが鍛えられます。聞いている高校生の表情を見て、興味をもってくれたり、内容が伝わったことがわかると、大きなやりがいを感じます。

※国立研究開発法人科学技術振興機構

ポート アイランド キャンパス

Port Island Campus



うえだ なつみ
上田 菜摘美さん | フロンティアサイエンス研究科
生命化学専攻 博士後期課程 3年次